

令和 7 年度

一般選抜Ⅱ期 問題

試験開始までに下記の注意事項をよく読んでください。

試験時の注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- ② 問題冊子は表紙等を含めて 19 枚、解答用紙は各科目 1 枚です。
- ③ 開始の合図の後、解答用紙に「氏名」、「個人番号」を記入すること。
- ④ 試験時間は、60 分です。4 科目から 1 科目を選択すること。
- ⑤ 記述解答で、字数の指定がある問題では、句読点は 1 字として数えること。
- ⑥ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ⑦ 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

目 次

	ペ ー ジ
国 語	1
英 語	5
化 学 基 礎	10
生 物 基 礎	13

〔一〕 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「見て見ぬふりをする」と「見ぬふりをして見る」というのは、同じことのように聞こえるが、あいだにじつは並々ならぬ温度差がある。

乗客が他の乗客に「迷惑」をかけられているのに、「理不尽」だとおもいながらも、注意した後の展開が**(a)**コワくて身動きできない。しかたなく「見て見ぬふりをする」。前者の、**(1)**傍観を決めこむ例である。

家庭の事情で子どもが泣きじゃくりながら通りを駆け抜けるのを見、すぐにでも声をかけてやりたいところだが、その場しのぎの解決にしなければならないことを知っていて、だからだれそれとなく、無茶をしないかと**(b)**ダメって遠目に見ている光景。見ぬふりをしてちゃんと見ている例である。

よほどのことがなければ口を出さない。**(A)**を返せば、よほどのことがあればちゃんと口を出す。路地、商店街といった職住一致の生活空間にはそんな近所づきあいがある、ありえた。「育てる」などといわずとも、そこにいれば子どもが「見ぬふりして見る」大人たちに囲まれて「勝手に育つ」、そのような場が。

そういうまなざしが充満する空間は、たしかになんとも息苦しい。粘り着くようなまなざしがとにかく鬱陶しくて、子どもはそこから出てゆくことばかり夢みる。が、何層もある集合住宅に一度暮らしてみても、あるときは**(2)**と気づいた。見るでもなく、見ないでもない、「見ぬふりをして見る」というグレーゾーンがここではなりたたない、と。

人びとの集住のかたちが、町なかという地べたのものではなくて、ビルという立体のものになると、個々の家は鉄の扉で閉ざされ、内の気配はうかがえない。たがいに顔を合わせるのはたまたま乗り合わせたエレベーターの中でだけ、ということになる。たがいに見るか見ないかのいずれかになり、「見ぬふりをして見る」というグレーな関係が**(3)**困難になる。

(4)子育てや介護はまわりの大人たちの共同の仕事のはずだ。そこで、地域にグループホームやさらにその横に**(c)**タクシショなどを作り、「見ぬふりをして見る」ような関係をあらためて**(d)**シウフクしようという動きは、ずいぶん前から始まっている。

そういうなかで、たとえばプロの介護スタッフには「これを知ったらしんどくなる」と直感する**(e)**シユンカンがある。知らないふりをするのでかろうじてできるサービスというものがある。ある割り切りがなければやれない仕事、そこに「全人的な理解」などという過重なものを求めてはいけない。ここでもひとが遠目に見るだけなのは、**(5)**気の毒だけれど、その割り切れなさを引き受けるだけの容量がじぶんにはないことを知っているからだ。

自分は無力だと知ったひとのまなざしは、無力だと知らないひとのまなざしより、おそらくは柔和である。

(驚田清一『見ぬふりのマナー』による)

問1 傍線部(a)～(e)の片仮名を漢字に直しなさい。

問2 空欄 **(A)** に入る最も適切な語句を漢字一字で答えなさい。

問3 傍線部(1)「傍観」、(3)「困難」の対義語を答えなさい。

問4 傍線部(2)「はたと」の品詞名を答えなさい。

問5 傍線部(4)「見ぬふりをして見る」のような関係とあるが、この関係を表す語句を本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問6 傍線部(5)「その割り切れなさ」とあるが、同じような意味を表すことばを本文中より二十字以内で抜き出して答えなさい。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「ひいき（鼯鼠）」とは、そもそもどういふことなのだろうか。そのことばの意味から考えてみたい。

その際に、参考にした書物が二冊ある。

一冊は、哲学者の九鬼周造くきしゅうぞうによる『いき』の構造（岩波文庫）である。もう一冊は、精神科医の土居健郎どいたけおによる『甘え』の構造（弘文堂）である。

どちらも名[A]である。ロングセラーで、今でも広く読まれている。本書のタイトルを『ひいき』の構造としたのも、この2つの本があったからである。2つの本の内容は、鼯鼠といふことにも関連している。

九鬼は、『いき』の構造（岩波文庫）において、いきについて分析を行う際に、「内包的構造」と「外延的構造」に分けて論じている。

内包的構造とは、いきを成り立たせている3つの要素のことで、それは「媚態びたい」「意気地いきぢ」「諦めあきら」からなっている。

一方、外延的構造においては、いきと対立する、あるいは関係する8つのことばが取り上げられている。

それは、「上品」「下品」「派手」「地味」「意気a)」「野暮a)」「甘味」「渋味」であり、九鬼はそれを、有名な直方体の図にまとめあげている。

この図は、現在の岩波文庫版では、文中だけではなくカバーにも載せられている。

九鬼が問題にしているのは、いきであるわけだが、8つのなかには、「意気」が含まれている。いきと意気とは、いったいどう異なるのか。これについては議論になるべきところだが、この点で九鬼の議論自体に曖昧b)さがつきまとうているようにも思える。

だが、上品と下品との中間にいきが位置していると、上品に「或るもの」を加えるといきになり、さらに、加えすぎると下品になるとしたところなどは、思わずうなづいてしまう見事な分析である。和服を着る際に、襟えりを胸で合わせたところが衣紋えもんと言われるが、衣紋を少し抜くと晴れ着になり、抜きすぎると芸者のようになってしまふというのが、ここで言う或るものである。

『いき』の構造では甘味ということが取り上げられており、そのことは『甘え』の構造で言及されている。九鬼は甘味を渋味と対比させている。ここでの渋味についての分析も興味深いもので、その[B]の深さが明らかになってくる。九鬼は、栗に渋皮があるのは、栗が昆虫から自分を守るため、その点では他者との関係は消極的であるとしている。それに対して、甘味は、甘える者と甘えられる者とのあいだに積極的な関係を生み出すというのである。

これについて土居は、『いき』の構造では、主として江戸の文学が参照されているため、甘えがもつばら異性関係におけるものとして理解されていると指摘している。その点で九鬼は甘えの幼児性に気づいていなかった可能性があるという。たとえ九鬼がそれに気づいていても、いきをもつばら色っぽいものとしてとらえる『いき』の構造においては、その点を認めなかったのかもしれないというのだ。

「ことば」といふものについて、現代の言語学は、それが「差違の体系」であることを強調している。これは、スイスの言語学者であるフェルディナン・ド・ソシュールが主張したことなのだが、一つのことばというものは、それ単独では意味を持たず、他のことばとのあいだに差違を持つことで、一定の意味を持つことになる。九鬼が、ソシュールの死後にまとめられた『一般言語学講義』¹⁾を読んでいたかどうかは分からないが、いきの外延的構造について述べているところには、その影響があるようにも思える。

鼯鼠といふことばについて考えをめぐらしていく上でも、こうした視点は重要である。ただ、そうした点を論じていく前に、私たちはまず、鼯鼠といふことばがどのような広がりを持つものであるかを見ていかなければならない。

鼯鼠といふことばを聞いたとき、それに関連するさまざまなことばが思い浮かぶだろうが、まず何よりも関心を引くのは、「依怙c)鼯鼠」といふことばである。

特定の集団のなかで、ある人物だけが目をかけられ、優遇されることがある。それをさして、依怙鼯鼠と言われる。自分が依怙鼯鼠されたという人もあるだろうが、多くの場合、誰か別の人間が依怙鼯鼠されているのを目にした経験を持っている。なかには、自分が依怙鼯鼠する側にまわったことを自覚している人もいるかもしれない。学校の教室では、依怙鼯鼠の問題はたびたび浮上する。

依怙鼯鼠が、ある人間にだけ有利に働くものであるだけに、そのイメージは決してよいものではある。依怙鼯鼠は公正さに欠ける。おおもむねそのように考えられている。

しかし、鼯鼠はどのように否定的なものとしてだけとらえられているわけではない。

鼯鼠が肯定的なものとしてとらえられている世界の代表が歌舞伎であろう。歌舞伎の観客は鼯鼠と呼ばれる。また、そうした客がとくに目をかけている役者も鼯鼠と呼ばれる。鼯鼠とは、役者を支える後援者、あるいはパトロンの意味がある。³⁾歌舞伎の世界は

鼠肩によって成り立っている。

こうした意味での鼠肩ということばは、「鼠肩の店」といった形で、その人間が常連^(d)になっていて店をさす場合にも用いられる。依怙鼠肩とは対照的に、こちらの意味の鼠肩は、好ましいものとしてとらえられている。店に限らないが、「鼠肩のもの」もある。

鼠肩という熟語を構成する鼠や肩といった字は、鼠肩以外にはほとんど使われない。鼠には、鼠怒^{ひど}ということばがあり、それはかかること、水が激しく流れることを意味している。ただ、鼠怒と言っても、それを聞いて理解できる人はほとんどいないはずだ。

鼠には「ひ」「び」「ひい」と3通りの読み方があり、漢字としては貝部に属している。総画数は21画にもなる。

肩は「き」と読まれ、貝部ではなく戸部に属し、総画数は10画である。

鼠肩のなかには、貝が4回登場するが、貝は、貝貨ということばが示しているように、貨幣^(e)としても用いられてきた。

したがって、鼠とは多くの財貨を意味し、肩は財貨を抱え込むことを意味する。肩の異体字に鼠があるが、貨幣としての貝が3つも含まれている。

『新版漢語林』(鎌田正・米山寅太郎、大修館書店)によれば、多くの財貨を抱えるということが、大きな荷物を背負うという意味に転じ、さらには、盛んに力を使うこと、鼻息を荒くして働くことの意味を持つようになったという。

ただ、『角川新字源』(小川環樹・西田太一郎・赤塚忠編、角川書店)では、鼠について、「字源は明らかでない」とされている。たしかに『新版漢語林』の説明は、こじつけで、無理があるようにも思える。

(島田裕巳『ひいき』の構造)による)

問1 傍線部(a)～(e)の漢字の読みを平仮名で答えなさい。

問2 空欄 A・B に入る最も適当な語句を漢字一字でそれぞれ答えなさい。

問3 傍線部(1)「いきの外延的構造について述べているところには、その影響があるようにも思える」とあるが、その具体例として述べられている箇所を本文中より、二十五字以内で抜き出して答えなさい。

問4 傍線部(2)「決してよいものではある」を、正しい文に書き改めなさい。

問5 傍線部(3)「歌舞伎の世界は鼠肩によって成り立っている」とあるが、その意味を本文中の語句を使って二十五字以内でまとめて答えなさい。

問6 傍線部(4)「対照的」の対義語を答えなさい。